

公立大学法人広島市立大学理事長候補者の決定について

現理事長が令和5年3月31日をもって任期満了となるため、公立大学法人広島市立大学理事長選考会議で選考を行いました。その結果、若林真一現理事長を次期理事長候補者とすることを決定し、理事長から広島市長へ次期理事長の任命を申し出ましたので、お知らせします。

1 選考経過（令和4年）

- 5月16日 第1回理事長選考会議（理事長候補者選考に係る日程及び公示案の決定）
- 5月18日 理事長候補者選考日程等に係る公示
- 5月18日～7月29日 理事長選考対象者推薦受付
- 6月28日 第2回理事長選考会議（理事長選考会議委員による選考対象者推薦について）
- 8月4日 第3回理事長選考会議（理事長選考対象者の決定）
- 9月20日 第4回理事長選考会議（書類審査、面接審査）
- 10月24日 第5回理事長選考会議（理事長候補者の決定）

2 選考理由

公立大学法人広島市立大学理事長選考会議は、理事長候補者の選考に当たり、「人格」、「学識」、「法人の経営管理能力」及び「大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力」の4つの審査項目に基づき、書類審査及び面接審査を実施した。

若林真一氏は、10余年にわたって本学副学長及び法人化後の理事・副学長を歴任し、平成31年度に第3代理事長・第5代学長に就任した。この間の職務に対する姿勢を見ると、温厚で冷静沈着な人柄を備え、大学構成員の多様な意見に耳を傾けコンセンサスを得ながら、理事長・学長として最終的な決断を下してきたと評価できる。

学識に関しては、情報工学分野における研究・教育活動に継続して熱心に取り組んできたことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大への対応を迫られる中、「広島市立大学のデジタル化の基本方針」策定をはじめとする大学のデジタル化を推進するなど、豊富な学識を大学運営に生かしてきた。

経営管理能力に関しては、第2期中期計画を着実かつ安定的に遂行したのみならず、新型コロナウイルス感染症拡大やハラスメント事案に対しても的確な危機管理能力を発揮するなど、理事長として法人の適切な運営に尽力してきた。

教育研究活動の運営能力に関しては、第3期中期計画の策定においても地域貢献という公立大学としての本学の使命を十分反映させており、大学の現在の課題と未来像を見据えた本学の運営に取り組んできた。

こうした氏の能力及び実績を鑑みた上で、第3期中期計画の目標以上の成果に向けた取組を期待できると判断した。中でもより具体的な課題として自身が認識している、長期的な低落傾向にある本学の研究活動の強力な推進や、本法人及び大学の将来のマネジメントを担う人材育成などにおいて、本学のさらなる発展に向けた一層のリーダーシップを期待できることから、若林真一氏を理事長候補者に選考した。